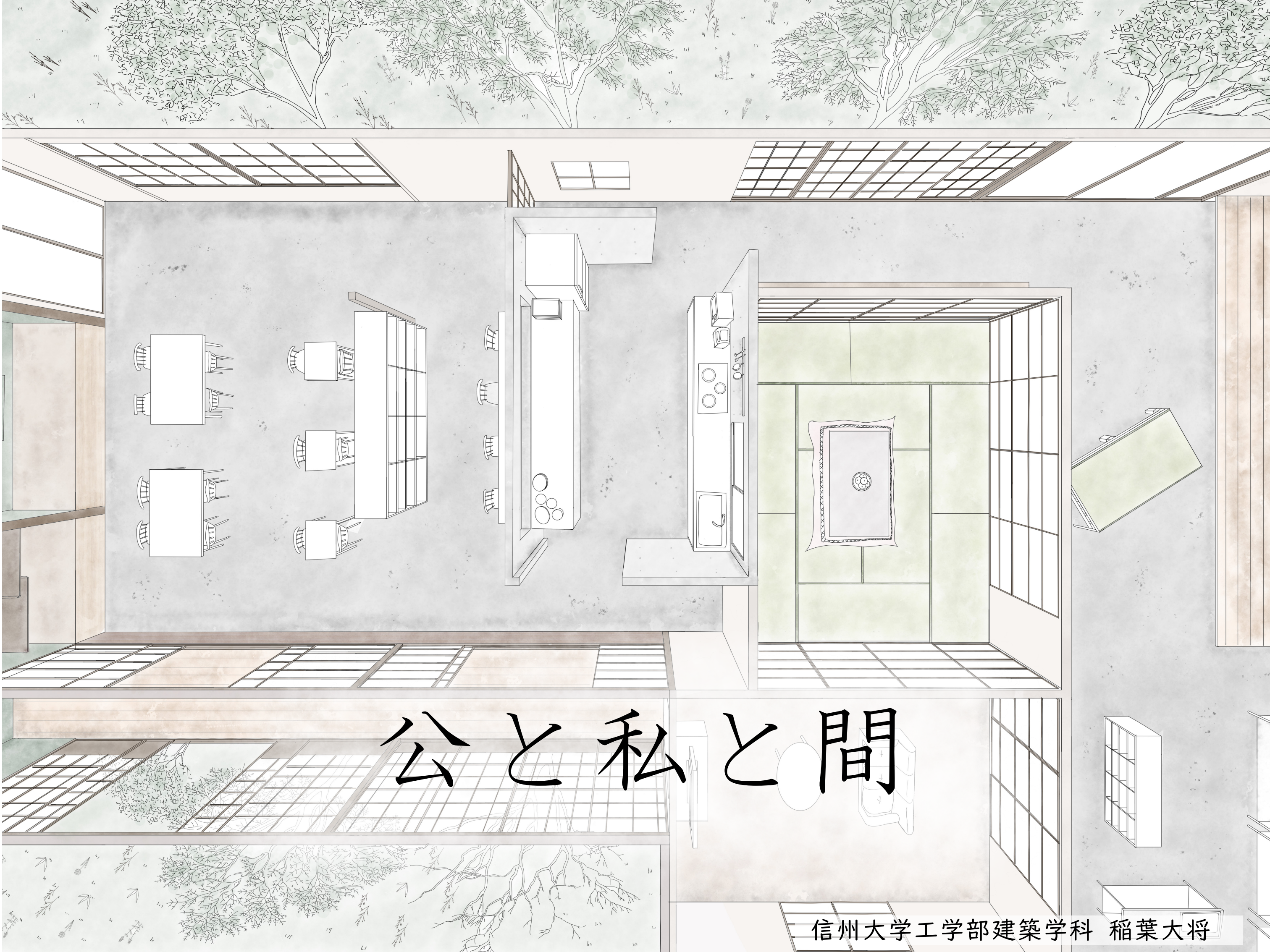
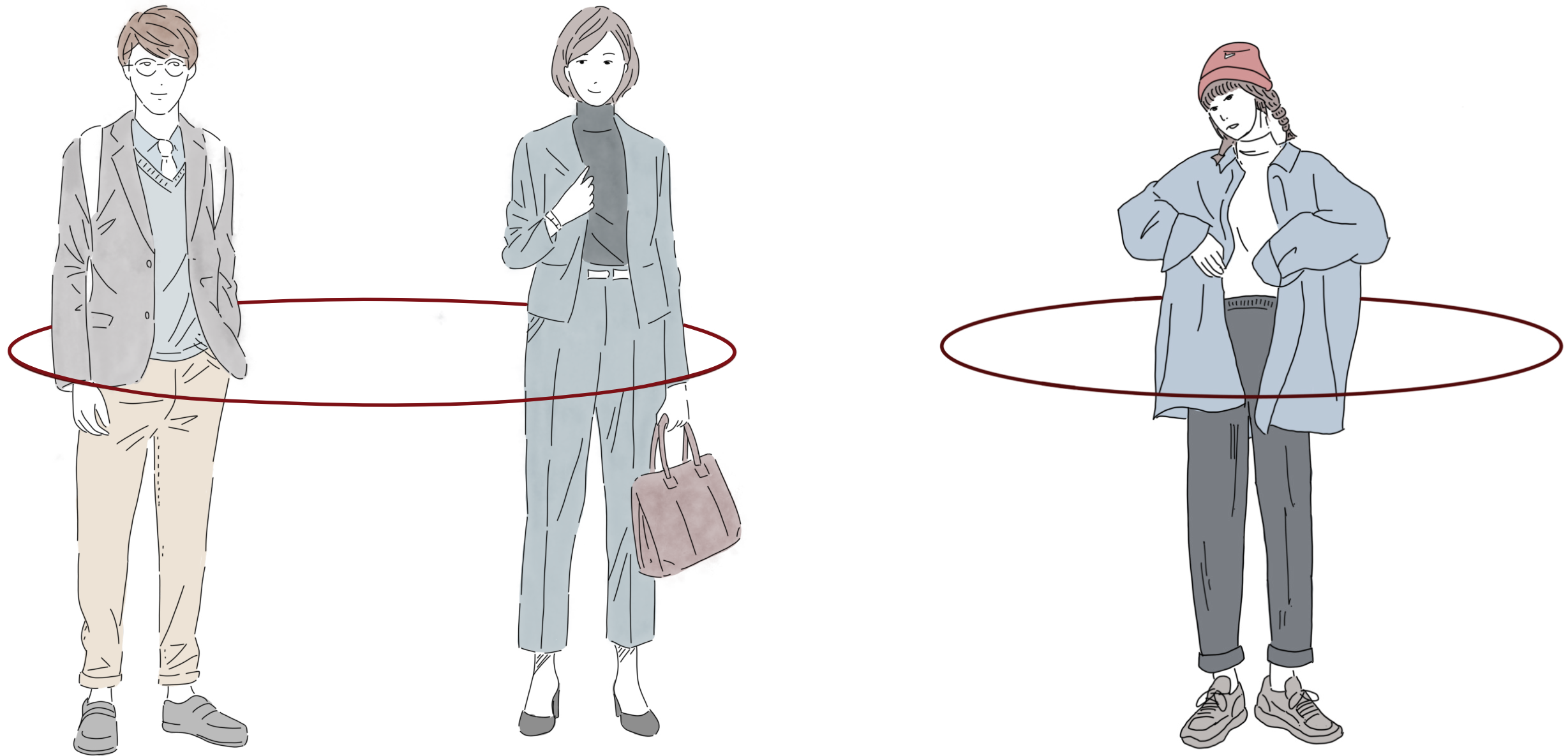




公と私と間



「公」… 自分以外の人とのかかわり

「私」… 個人の生活する領域

仕事スペース（公）と生活スペース（私）の乖離・家族共有の時間の減少

現在、公と私は過度に分離されている気がする。

今回の提案では、両者の距離感を程よく作る空間構成に挑戦する。

かつて越家住宅は、**住まいと店が一体**であった歴史があり、日常的に公と私が入り混じっていた。

私は、公と私に対する解答が越家に秘められていると考え、越家の特徴を観察・分析した。

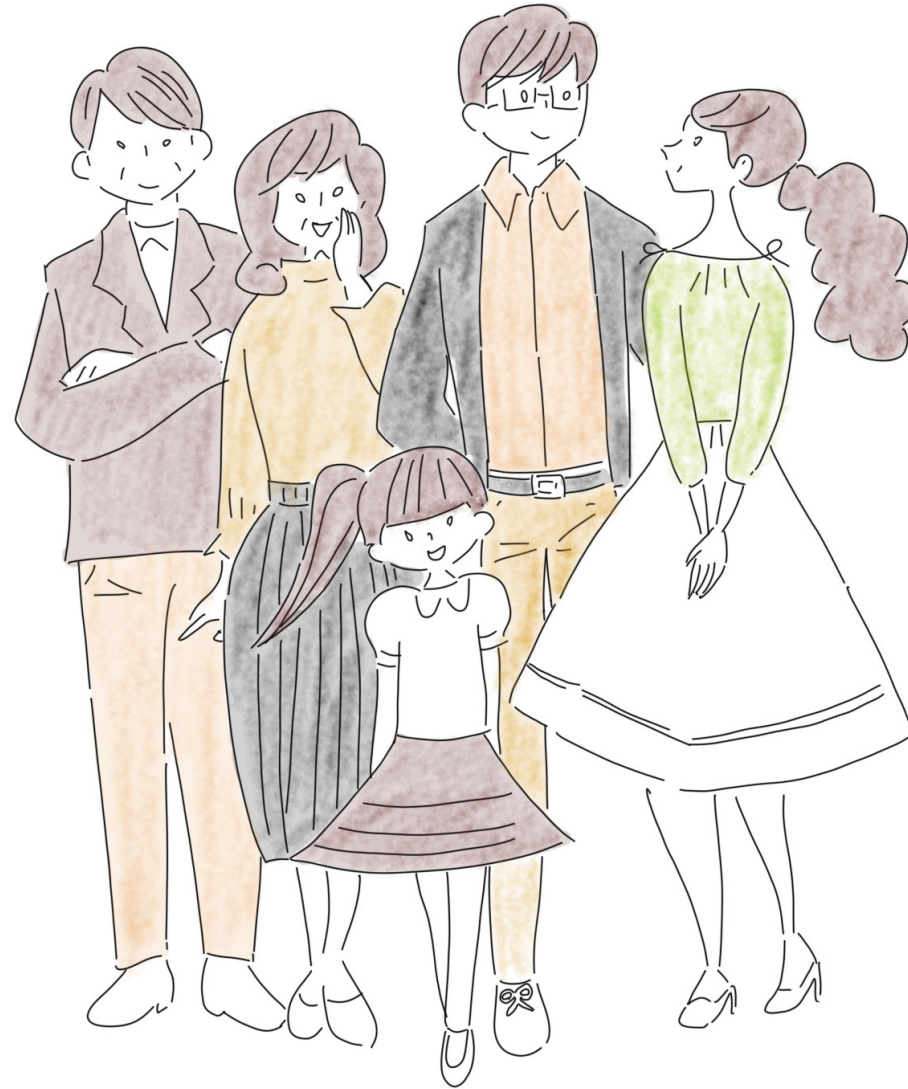
今回は**間の構成**について着目。

間のつなげ方を操作することで、「公」と「私」が混ざり合う場を作る。



間のつながりは、店と住居の相互関係・世代を超えたつながりを生み出し、

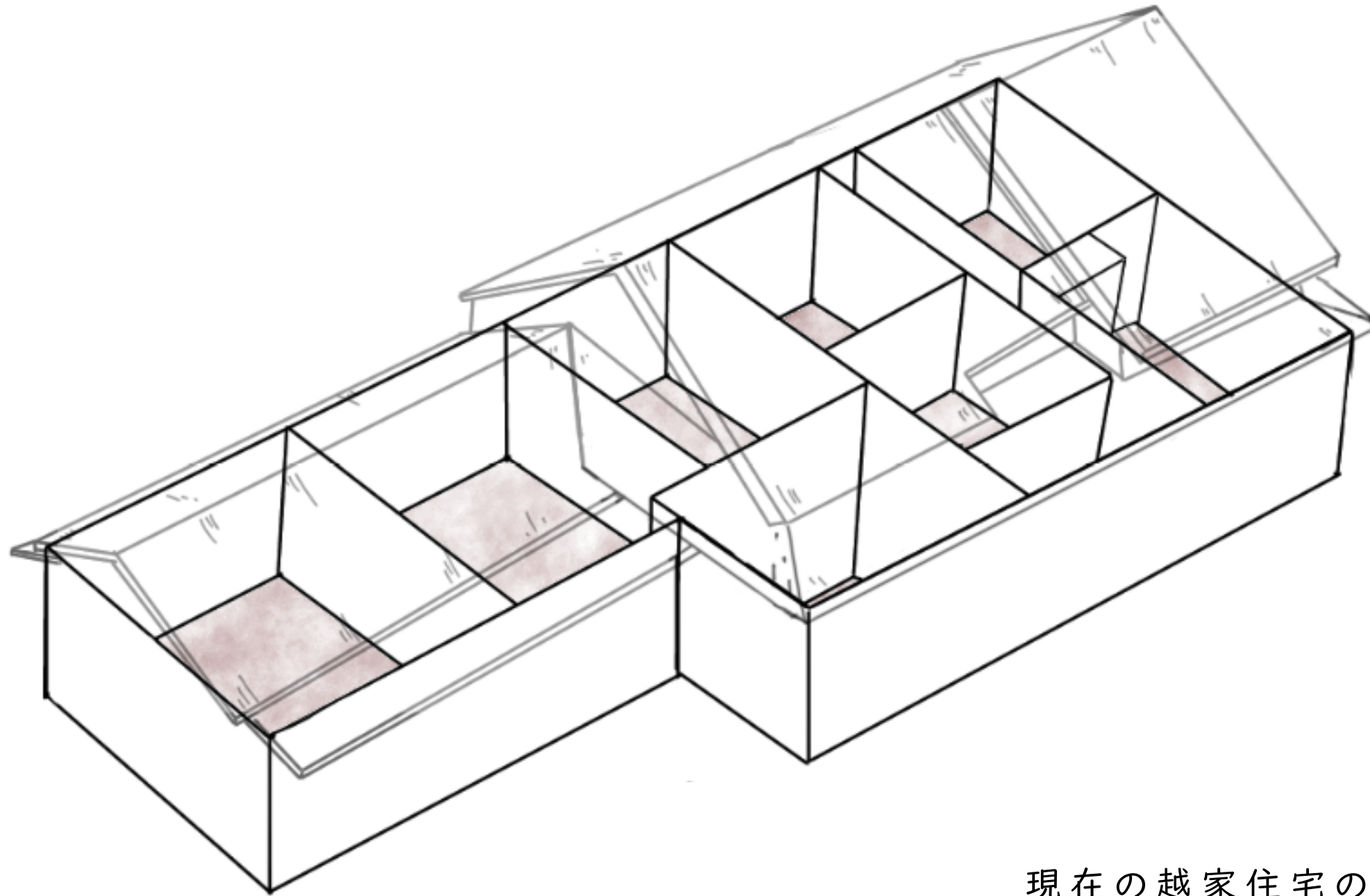
より**自由な暮らしの場**を構築する。



家族構成：3世代・5人家族

祖父母・夫婦は代々**発酵食品**の製造・販売を行う

作った発酵食品を用いた**食堂**を営む

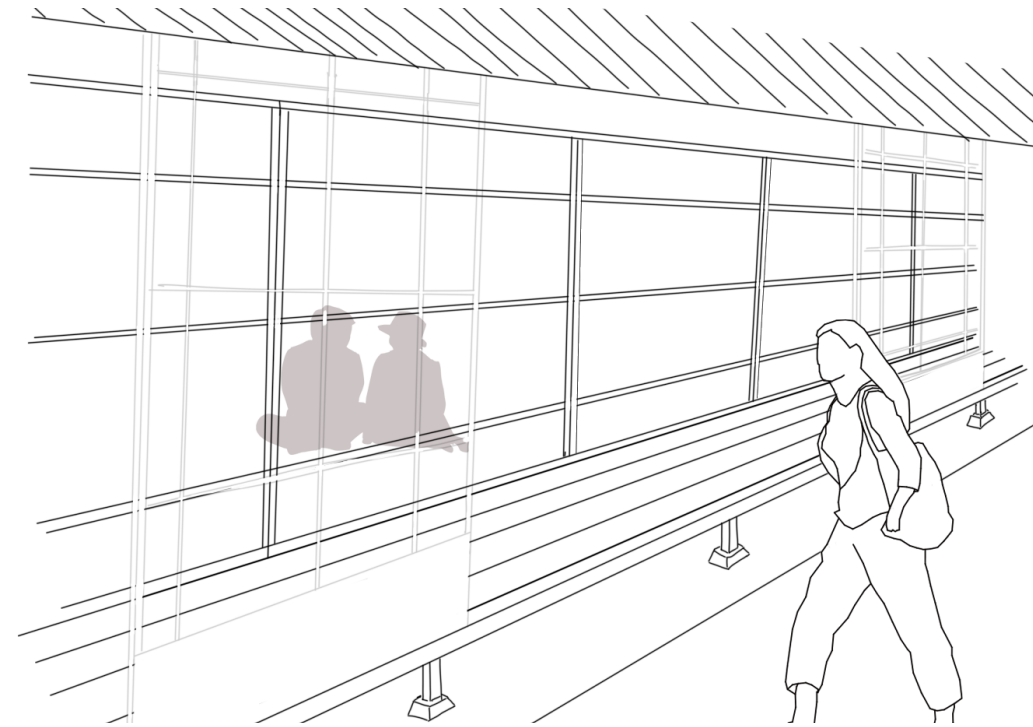


現在の越家住宅の構成

1：廊下がなく、**部屋が連続**している

2：**ガラス戸**で外皮がおおわれている

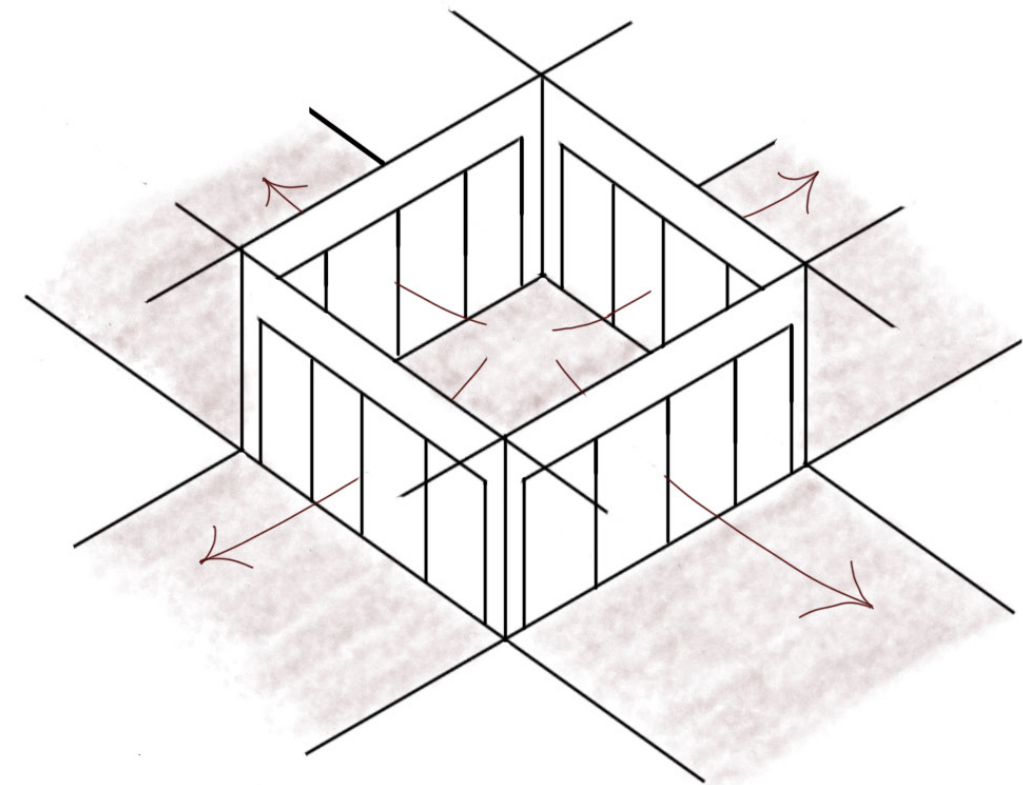
→ 近所の方々や家族間との**距離感の曖昧さ**



ガラス戸と障子
曖昧な公私の境界



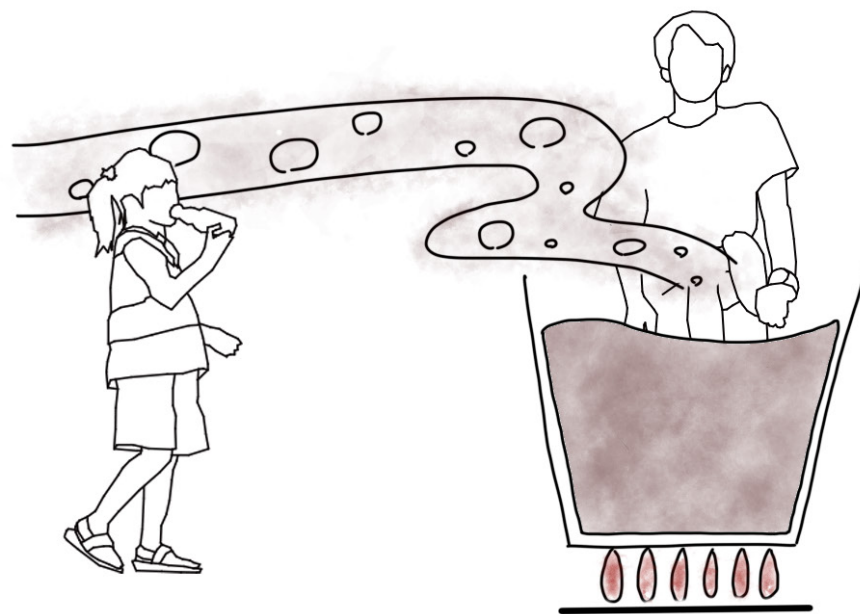
間を通り過ぎる
強制的に顔を合わせる



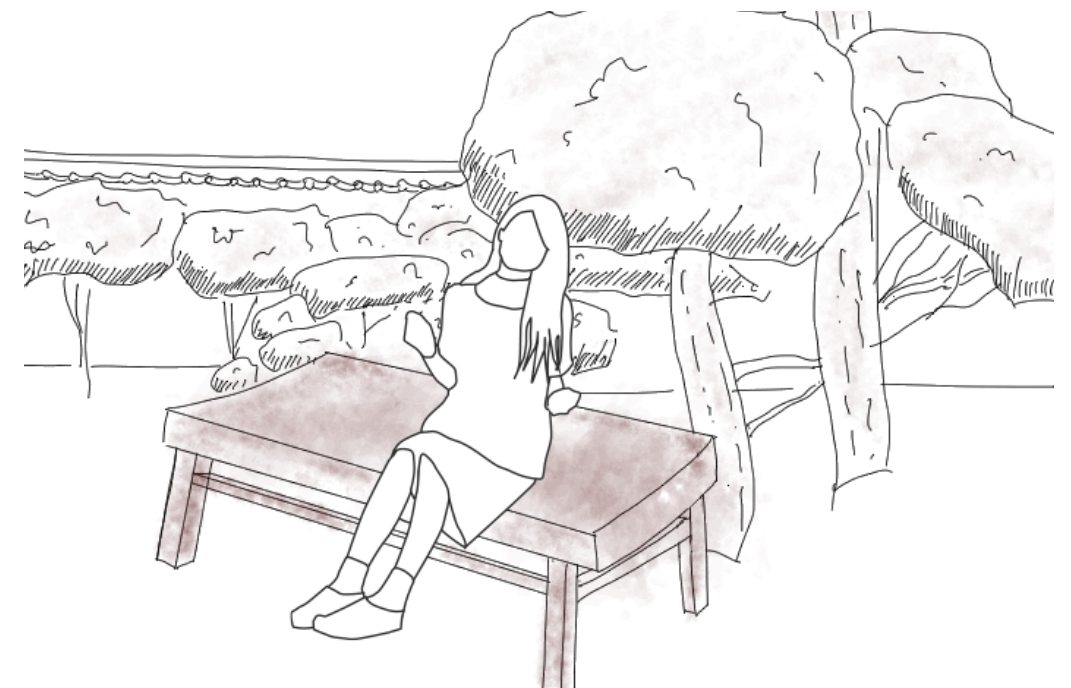
広い空間になりうる
空間の連続



世代を超えたかかわり
会話の創出

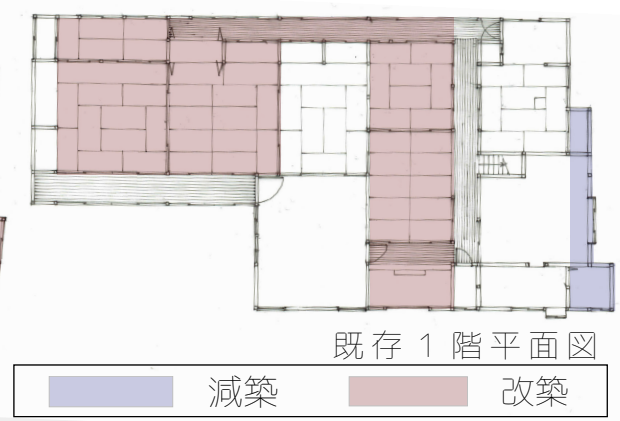


視線・空間操作
職と生活の相互作用



外とのつながり
開放性

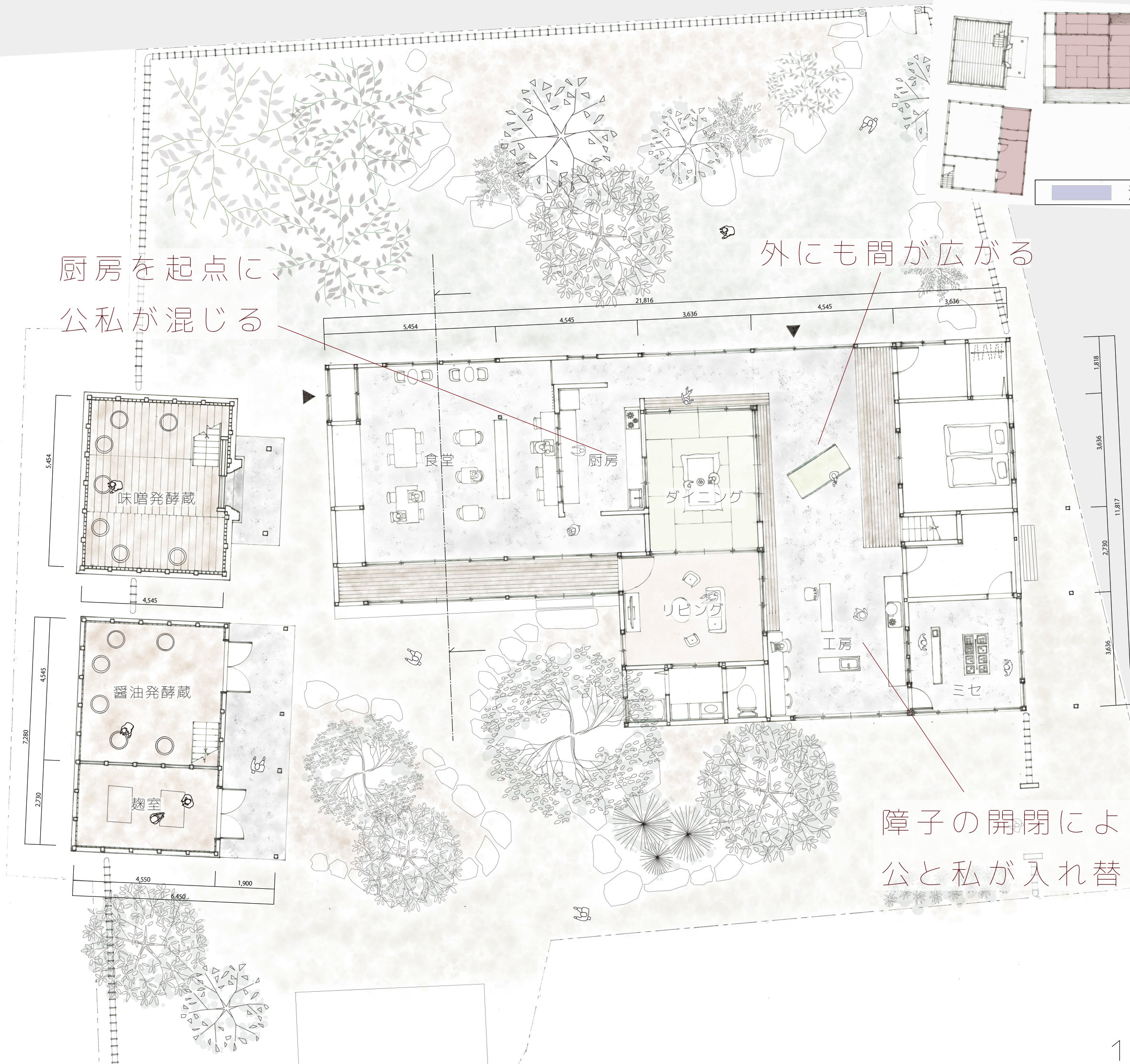
間の変化によって、公と私がうまく共存する暮らしを提案する。



厨房を起点に、
公私が混じる

外にも間が広がる

障子の開閉により、
公と私が入れ替わる



1階平面図

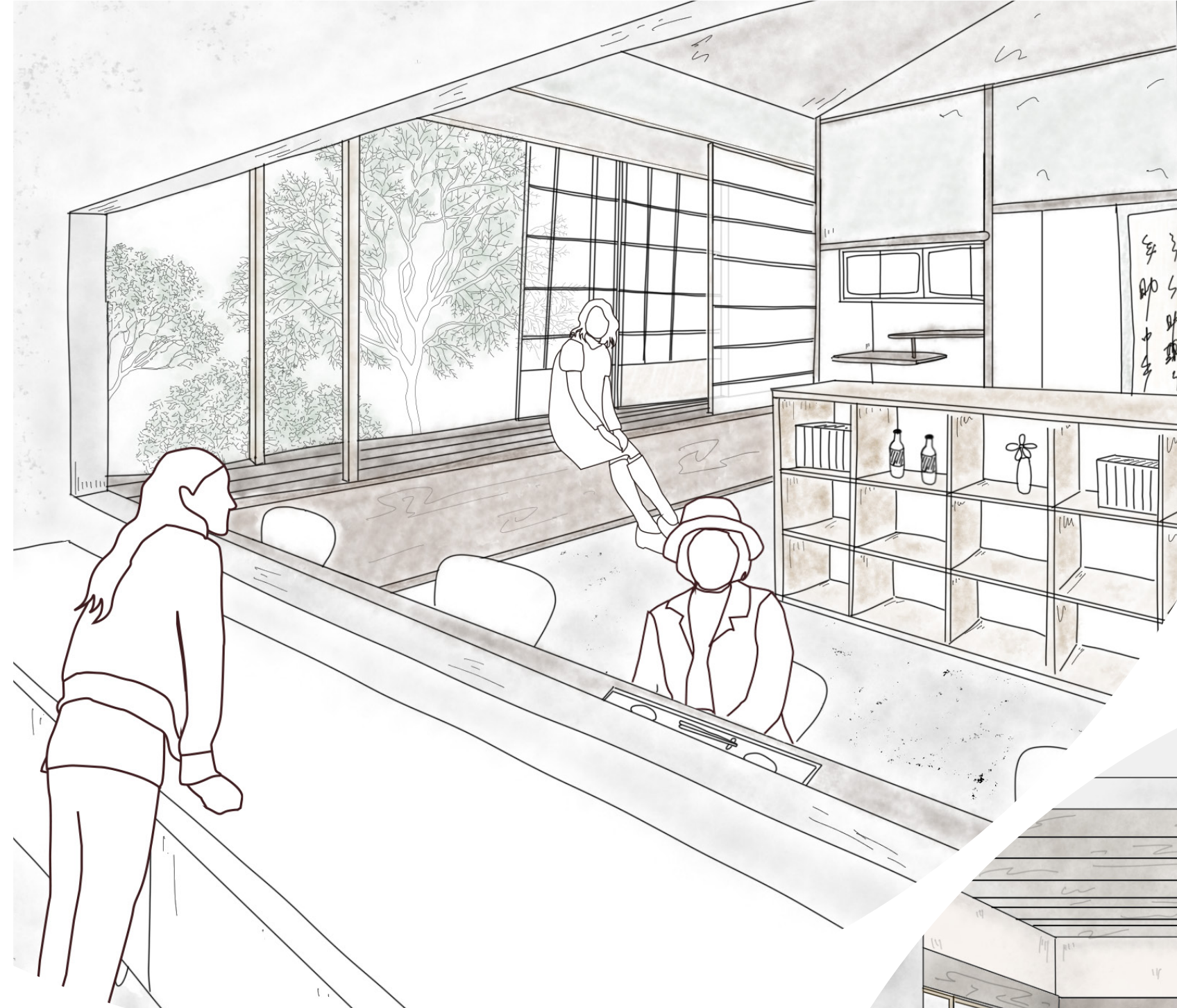
間の操作で公と私が混ざり合い、自由な暮らしが築かれる



食堂営業日の間の在り方

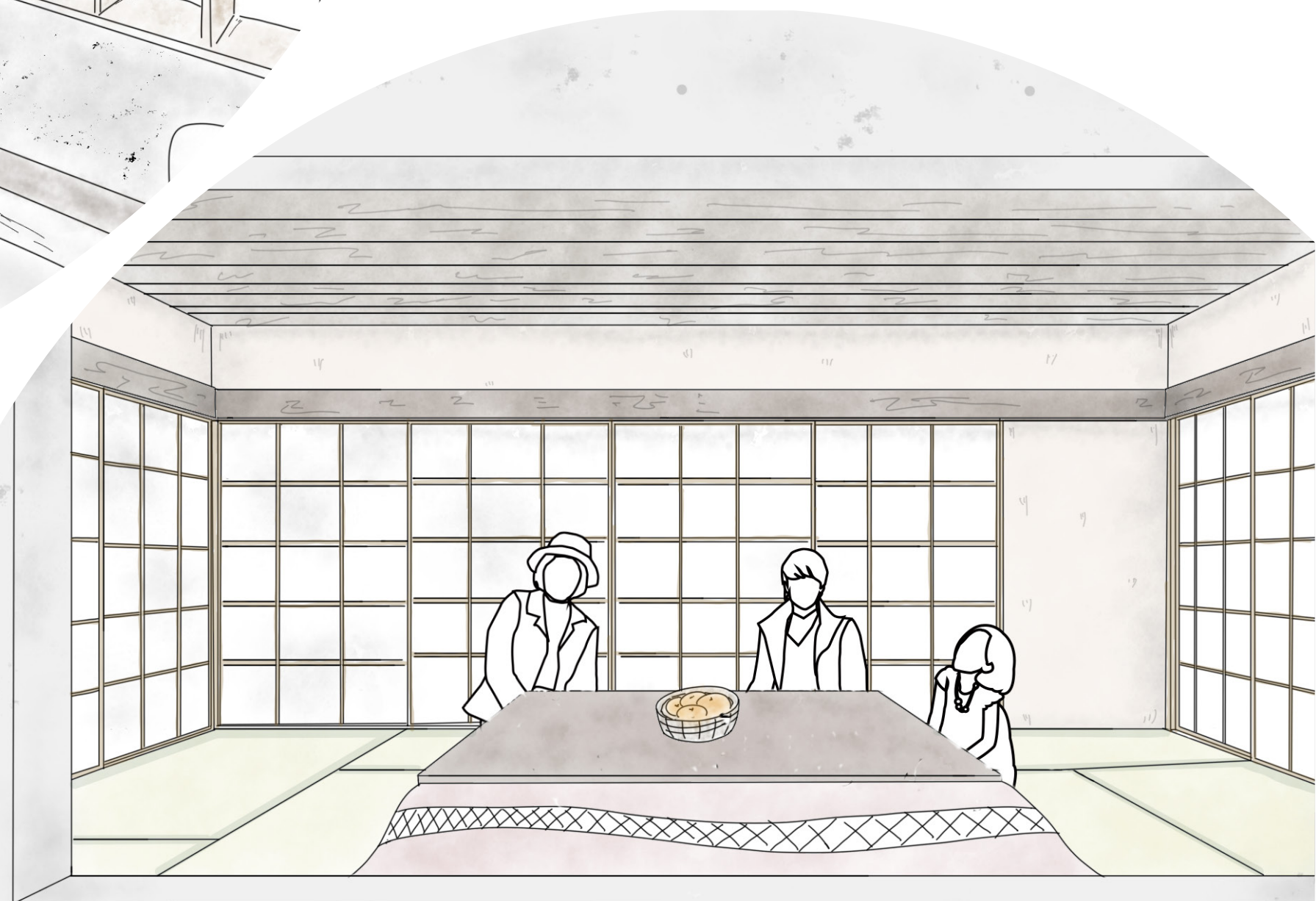


休日の間の在り方



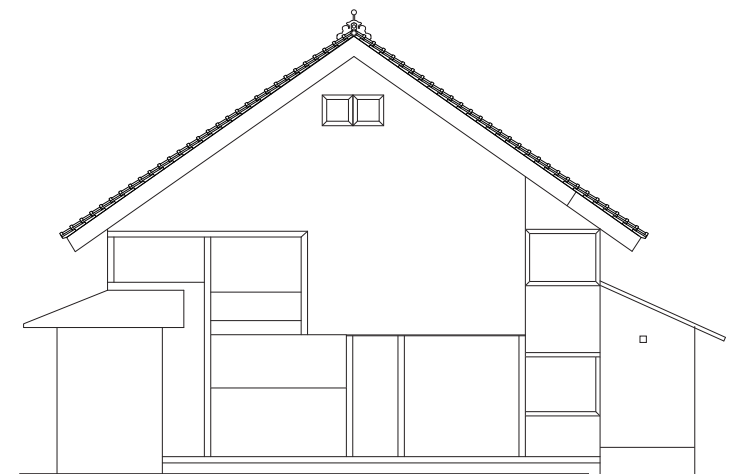
公の活動。庭の緑を
見ながらお客さんと交流

厨房から私の活動を見る。
晩御飯を待っているよう…



脇門から食堂へと続く。

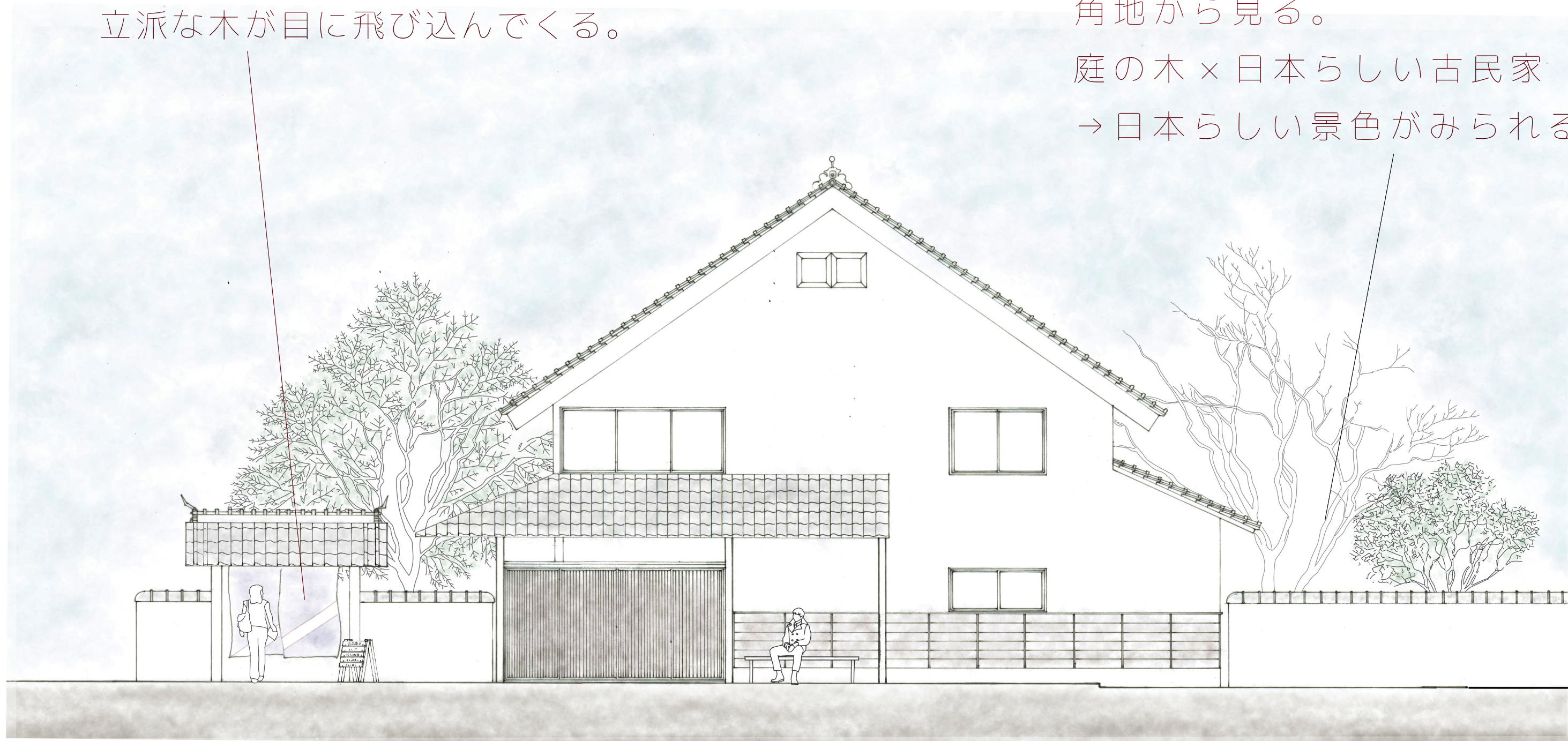
脇門を入ると、南面の庭にある日本らしい
立派な木が目飛び込んでくる。



既存東立面図

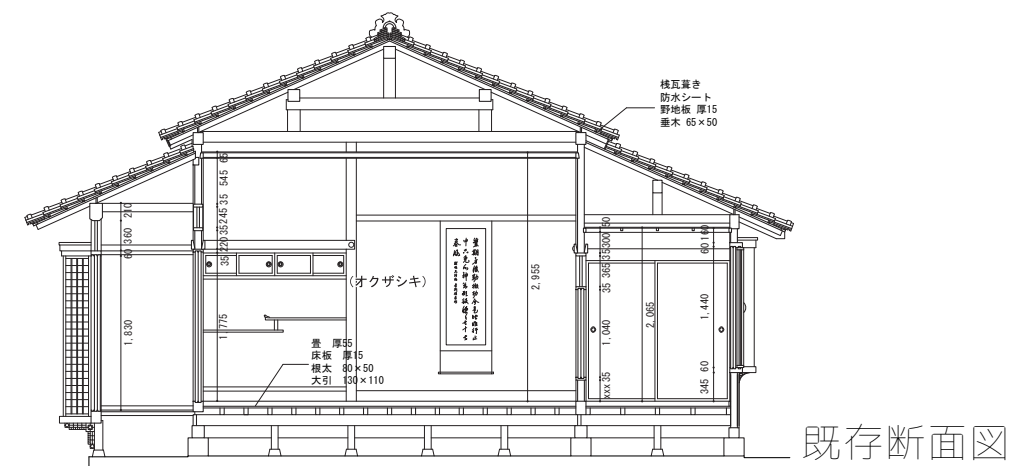
角地から見る。

庭の木 × 日本らしい古民家
→ 日本らしい景色がみられる。

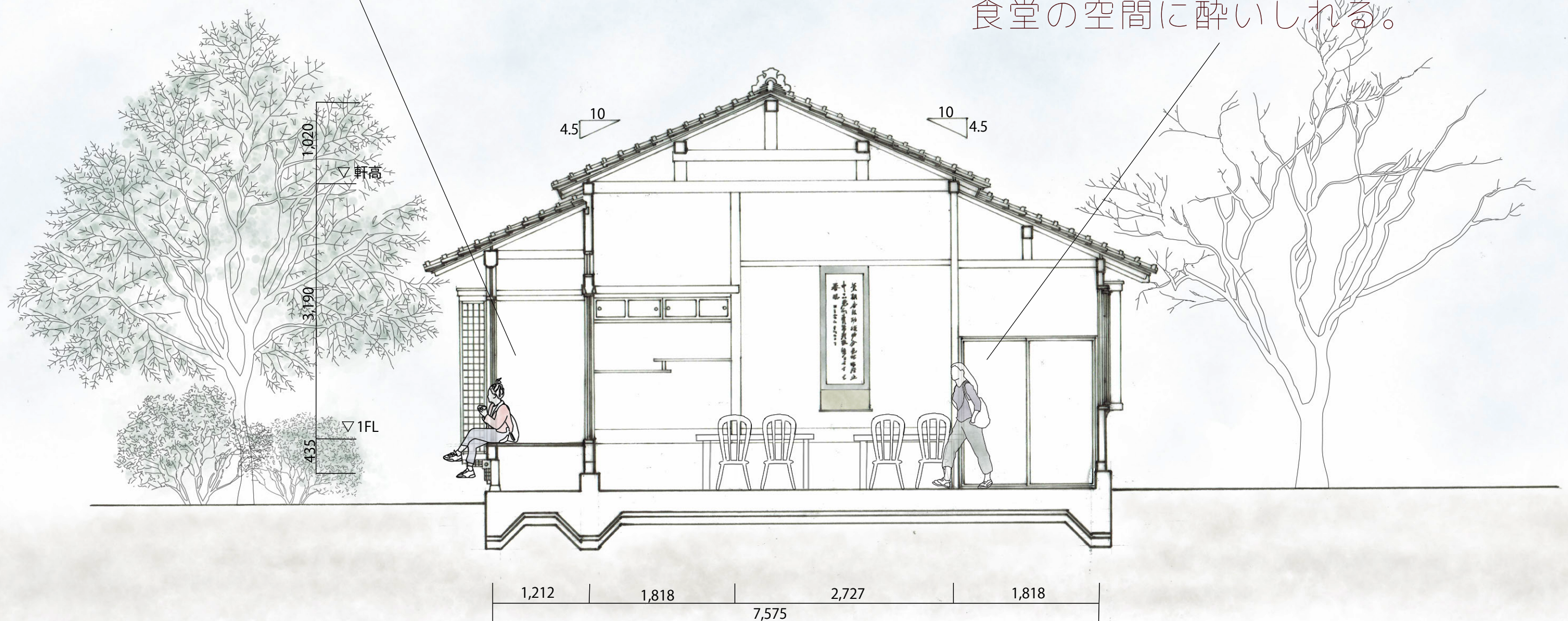


東立面図（街路沿いの風景）

縁側に座ってまったりと過ごす。日があ
たる憩いの場であり、食堂のお客さんと
してきた友人と話し込む場ともなる。



お店に入ると、垂れ壁と縁側による
額縁で切り取られた庭が目に入る。
食堂の空間に酔いしれる。



断面図 (食堂部分)

庭・蔵を見せる公の道

アプローチ計画

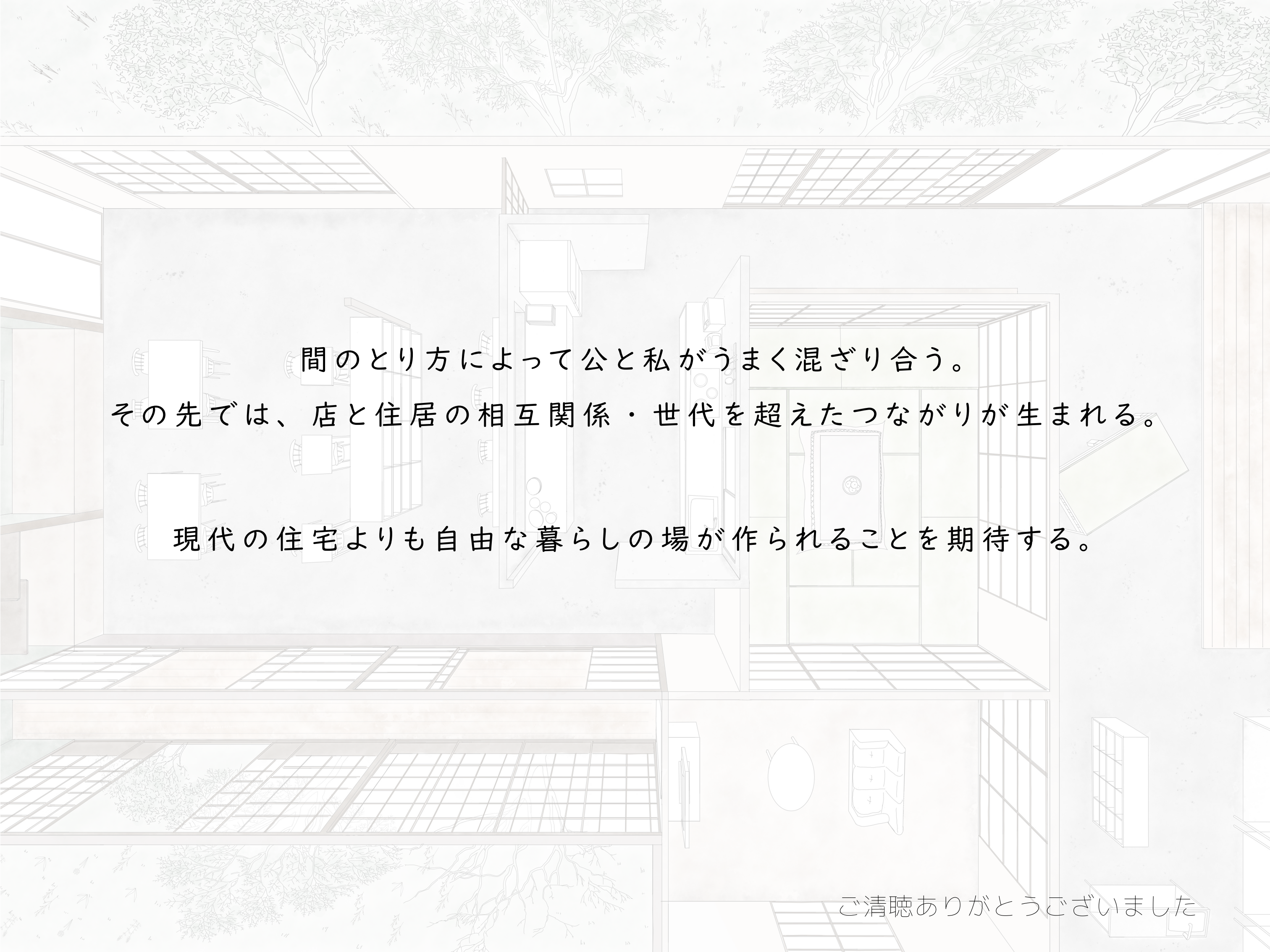


食堂へつながる道：発酵過程を見せる

脇門を抜けると、荘厳な庭の景色が広がる。横を見ると、工房の様子が見える。

先には、縁側の生活風景や土蔵内の活動・においが漏れ出る。

発酵の過程を知った後で食べる、知る前とは違うおいしさを味わえるだろう…



間のとり方によって公と私とうまく混ざり合う。
その先では、店と住居の相互関係・世代を超えたつながりが生まれる。

現代の住宅よりも自由な暮らしの場が作られることを期待する。

ご清聴ありがとうございました